

## お父さんと私の大切な手紙

西條 由佳  
さいじょう ゆいか

「お父さんおしごとがんばって来てね。」

私は、お父さんが出張に行く時に、この言葉と、お手紙をわたしています。

その手紙には、その時楽しかったことや、たいへんだったことを書いたり、出張先のおいしい食べ物を聞いたりしています。手紙のさいごにはがんばってね、と書いています。

出張の時は前もって知らされる時もありますが、とつぜんお父さんが行く日に知らされる時もあります。そんな時は、朝いそいで書きます。時には、手紙を書きわすれてしまうこともあります。その時私は、お父さんが帰ってきたらあやまりません。でもお父さんは、私が手紙を書きわすれてしまっても、「いいよ。」

とやさしく言ってくれます。

一番たいへんだった時は、一週間のうちに四日間ぐらいちがう場所、出張の時があつて、その時は手紙をまい日のように書いていました。いそがしいのに、出張先でおいしいおかしを買ってきてくれるので、私は、それをとても楽しみにしています。色いろなけんのおかしが食べれるし、そのけんの有名なおかしが分かるのでとてもおもしろいです。

ある日のことです。その日もお父さんが出張の日で、私は、手紙をわたして学校へ行きました。するとお父さんが、

「手紙がないどこにいったのだろう。」

出発時間なのにさがしはじめました。色いろな所をさがしたけれどありません。大さわざしてポケットを見てみたら、あつたそうです。私は、その話をお母さんから聞いた時とてもびっくりしました。なぜならお父さんは私の手紙をそんなに大切にしていたとは、知らなかったからです。お父さんに聞くといままであげた手紙をカバンの中にならずとしまつておいてくれたそうです。カバンの中を見ると小さいころの手紙まで入っていました。そんなに大切にしてもらえて私はとてもうれしくなり、ありがとうという気もちになりました。お父さんはまい日5時半におきて休日にもしごとに行く時が多く、会える時が少なくなっているけれど、私はお父さんのことをずっとおうえんしているのがんばってほしいです。私はお父さんの気もちが分かかったのでこれからは、ありがとうの気もちを手紙に書きたいです。